

2024年1月21日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解Ⅱ31「天国の鍵」

申命記11:13~17、マタイ18:15~20

問83 鍵の務めとは何ですか。

答 聖なる福音の説教とキリスト教的戒規のことです。これら二つによって、天国は信仰者たちには開かれ、不信仰な者たちには閉ざされるのです。

イエスさまは「わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは天上でも解かれる」(マタイ16:19)と言われました。鍵は扉を開けたり閉めたりするものですが、神さまはそのように天国を開いたり、閉じたりする務めを教会に託されました。

教会は洗礼を授けます。洗礼は牧師が一人で勝手に決めることではありません。わたしたちの教会では長老会で審議して決定します。これは長老会の最も重要な議事となります。それは天国の扉を開く決定になるからです。考えてみれば大変重い務めです。恐れをもって行わなければなりません。しかし同時に大きな喜びでもあります。『ハイデルベルク信仰問答』を翻訳した吉田隆先生は解説書の中で「本来この鍵は開くためのものだ」と書いています(『ただ一つの慰め』200頁)。確かにそうです。人間は罪を犯して楽園を追放されました。本来、天国は閉ざされていました。それを入れるようにしてくださったのはイエスさまです。イエスさまが、十字架でわたしたちの罪を贖ってくださいました。そしてよみがえりの命をもって、天国へ招き入れてくださいました。そのことが次の問84で言い表されています。

問84 聖なる福音の説教によって、天国はどのように開かれまた閉ざされるのですか。

答 次のようにです。すなわち、キリストの御命令によって、信仰者に対して誰にでも告知され明らかに証言されることは、彼らが福音の約束をまことの信仰をもって受け入れる度に、そのすべての罪が、キリストの功績のゆえに、神によって真実に赦されるということです。しかし、不信仰な者や偽善者たちすべてに告知され明らかに証言されることは、彼らが回心しない限り、神の御怒りと永遠の刑罰とが彼らに留まるということです。そのような福音の証言によって、神は両者をこの世と来たるべき世において裁こうとなさるのです。

「すべての罪が、キリストの功績のゆえに、神によって真実に赦される」とあります。このキリストによる罪の赦しを教会は福音、喜びの知らせとして語ります。このことはすべての教会共通の使命です。そのように説教は天国を開く鍵となるのです。イエスさまによってあなたの罪は赦されている。そのためにイエスさまは十字架で死んでよみがえってくださった。だからどうぞお入りください。説教は赦しの招きに他なりません。

しかし同時にそのように福音が語られても、我関せず、招きに応えないのであれば、天国の鍵は依然と閉ざされたままであることも心に留めておく必要があります。だからこそ、教会は福音を語ることに全力を傾け、一人でもこの招きに応えることができるように聖霊の助け、とりなしを祈り求めていかなければなりません。天国の鍵は閉ざされているのではなく、イエスさまによって開かれているのですから、この恵みが誰にでも分かるように伝える努力を教会は惜しんではいけないのです。

もう一つの鍵の務め、キリスト教的戒規に触れて終わりにしましょう。

問85 キリスト教的戒規によって、天国はどのように開かれまた閉ざされるのですか。

答 次のようにです。すなわち、キリストの御命令によって、キリスト者と言われながら非キリスト教的な教えまたは行いをなし、度重なる兄弟からの忠告の後にもその過ちまたは不道徳を離れない者は、教会または教会役員に通告されます。もしその訓戒にも従わない場合、教会役員によっては聖礼典の停止をもってキリストの会衆から、神御自身によってはキリストの御国から、彼らは閉め出されます。しかし、彼らが真実な悔い改めを約束し、またそれを示す時には、再びキリストとその教会の一員として受け入れられるのです。

福音の説教が信仰の中身を問うのであれば、戒規は信仰の実践、具体的な生活において表れる事柄を扱っていると理解することができます。「非キリスト教的な教えまた行いをなし」とありますように、イエスさまの救いを否定したり、福音と異なる教えを流布するようなこと。また証にならない生活、具体的には法に触れるような犯罪、あるいは倫理的な乱れが認められるならば、戒規が適用されます。教会は罪に勝利したよみがえりの命を世に現している場所だからです。

しかしこれには段階があって、まずは忠告がなされ、それでも改めないならば教会から訓戒がなされ、それでも改められないならば聖礼典の停止、聖餐停止となります。このように「段階的」であるのは、悔い改める猶予を与えているということです。言わば執行猶予です。それでも改めないのであれば、キリストの御国から閉め出されます。けれどもそれが最終的な目的ではありません。最後のところで「しかし、彼らが真実な悔い改めを約束し、またそれを示す時には、再びキリストとその教会の一員として受け入れられるのです」とあるように、ここに戒規の目的があります。単なる処罰、刑罰ではなく、悔い改めへと導くもの。そこにはイエスさまの赦しの恵みが響いています。

小さい頃、父に叱られて、何度か家の外に閉め出されたことがありました。今の時代はそういうことをしたら大変なことですが、でもその時に必ず母が出てきて「お父さん、もう赦してあげましょうよ」ととりなしてくれました。わたしたちは御心に適わないことをしてしまいます。神さまを信じてもお弱さは残るのです。けれどもイエスさまがとりなしていただきます。ご自身が命を献げて開いてくださった天国の扉ですから、これを閉ざすのではなく何とか開けておこうとしてくださるのです。イエスさまを三度も否定したペトロに、イエスさまは「わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った」(ルカ22:32)と言われました。イエスさまのとりなしによって、ペトロは立ち直ることができました。そのようにわたしたちが何度でも立ち直り、何度でも悔い改めることができる、何よりそのための鍵の務めであることを心に留めていただきたいのです。

天の父よ。イエスさまが命をささげて天国の扉を開いてくださいました。教会がどこまでもその喜びの知らせを宣べ伝えていくことができますように。でも同時にイエスさまの命を現すにふさわしく教会を整えていくことができますようにお導きください。主の御名によって祈ります。アーメン。